

〔助成の条件・内容〕

参加人数：5名（組）以上

開催回数：年10回以上（概ね月1回以上）

金額・回数：年20回を限度に、1回あたり1,000円（5年限度）など

8 緊急時の対応

もしも、家の中で倒れている方を発見した場合（倒れている可能性があり緊急性が高い場合も含む）の対応としては、気持ちが動転し、生きているか亡くなっているかの判断が素人にはつきにくいことから、まずは、救急車（119番）へ連絡することが賢明だといえます。その後、必要に応じて、警察（110番）への連絡を行います。

また、その際に、身内の方がいるか、いないかなどをすぐに確認できるようにするため、緊急連絡カード（参考例はP24、25参照）を作成しておき、万が一の場合のため、見守り・安否確認の対象となる各家庭に備えておいてもらうことが重要です。

なお、緊急性は低いが、「もしかしたら?」、「家の中で倒れているかも?」という疑いのある場合には、隣近所、民生委員児童委員、班長、町内会長などに問い合わせると旅行や入院など何かしらの手がかりがつかめるかもしれません。その他、状況に応じて、賃貸アパート・マンションであれば、管理人・管理会社や大家さん、分譲マンションであれば、管理人や管理組合の役員さん、市営住宅であれば、管理人や札幌市住宅管理公社に問い合わせることも必要です。まずは、ひとりで抱え込まず、関係者等との連携が必要になります。

9 その他の取組み事例

1) ちびっと工事

Aマンションの修繕委員会では、委員会の担当ではない専有部分の不具合について、「高齢者のひとり暮らしの方はお困りではないか」という意見がだされたことから、居住者全戸にアンケートを実施したところ、高齢者の方々を中心に多くの相談・要望が寄せられました。

当初は適当な業者を紹介することを考えましたが、器用な人ならすぐに対応できるような内容のものが殆どであったことから、修繕委員会で「ちびっと工事」と名付け

ボランティアで対応することとしました（部品代は実費）。ちびっと工事を通じて、ひとり暮らしの方の様子を確認することができます。

2) コミュニティ活動

定例会や季節の行事以外にも、人が集まる「場所」と「きっかけ」を用意することで、新たな人間関係づくりを行うことができます。たとえば、Eマンションでは、居住者から本の提供を受け、「コスモ文庫」と名付けたミニ図書館を集会室内に設け、毎週第3木曜日、金曜日に開放し、閲覧、貸出しを行っております。

Fマンションでは、1Fの共有部分のスペース(580㎡)に健康器具の設置や談話コーナーを開設し、また室内散歩、ラジオ体操や子ども達の運動場として利用されています。

